

## Low-E ガラスと癌の関連性に関する調査報告

健康維持増進住宅研究委員会  
健康影響低減部会長 吉野 博

### 1. はじめに

2008年11月に、「室内空気環境と健康に関するカナダ・米国における研究動向の調査」を実施致しました。調査の一環として、カナダ住宅金融公庫（以下 CMHC）が建設した「化学物質過敏症の患者のための住宅」を訪問しました。その際にプロジェクト責任者 から「Low-E ガラスは使用せず、コーティングのない三重とし、自然光を取り入れる。これは、自然光のスペクトラムを変化させてしまい、生体リズムに影響を及ぼし、癌の要因を作るからである。」との説明を受けました。

帰国後、2009年3月26日（木）に開催された「第3回健康維持増進住宅シンポジウム」において、吉野が海外先端研究について講演を行いました。その中で、この件について報告をいたしました。

この発言に対して、複数の問い合わせがあったことを踏まえて、2009年4月以降、CMHC プロジェクト責任者の説明に関する再確認やカナダにおける研究事例など科学的証拠の有無に関して調査を行って来ました。その結果、以下のような事実関係が判明致しましたので御報告を致します。

### 2. 調査結果

- 1) 調査時に現地で説明をされた CMHC のプロジェクト責任者（Virginia Salares 氏）に直接確認を取るべく努力を行って来ました。しかし、氏はその後 CMHC を退職しており、メールアドレスが削除されるなど連絡が不可能になっておりました。また、CMHC を通じて連絡を取ることが非常に困難な状況で今日まで時間が経過してしまいました。
- 2) 一方、本件に関連して同氏が研究レポートを紹介している記事(Research & Development Highlight, ENERGY EFFICIENT WINDOWS, LIGHTING & HUMAN HEALTH, CMHC SCHL Helping to house Canadians, NHA 6330) を入手いたしました。その記事中で、光と健康について簡単な解説が述べられていますが、現地で説明されたような内容は含まれておらず、光に敏感な人に対する健康への影響については今後の研究が必要であると述べられているに留まっておりました。
- 3) NRC (カナダ国立研究所) の光環境の専門家 Morad Atif 氏 (Director of The NRC Institute for Research in Construction) に問い合わせたところ、そのような事実に関しては把握していない。また、関係者にも問い合わせたが科学的証拠があるという人は誰もいないという返答がありました。
- 4) CMHC の専門家 Duncan Hill 氏 (Manager, Sustainable Housing Policy and Research Group, Policy and Research Division) から、窓からの光と癌についての関係の研究については知らないとの返事を貰いました。
- 5) バンクーバーに在住する技術士 (PE) である伊藤公久氏が、板硝子協会からの問い合わせに関して、CMHC の後任プロジェクト責任者に尋ねたところ、健康影響について示された文書は無いとの回答がありました。

### 3. 結論

室内空気環境と健康に関する研究動向調査の一環として、CMHC が建設した「化学物質過敏症の患者のための住宅」を訪問した際に Low-E ガラスと癌の関連性について説明を受けたため、そのことを3月の健康維持増進住宅シンポジウムにおいて紹介いたしました。これに対して複数の

問い合わせがあったことを踏まえて、科学的証拠に関して可能な限り調査を行ってきました。その結果、上記2のとおり、当時の CMHC のプロジェクト責任者（Virginia Salares 氏）が発言した Low-E ガラスと癌の関連性に関しては、それを示す科学的根拠やそれを示唆する意見を確認することが出来ませんでした。

このため、Low-E ガラスと癌の関連性についての言及は撤回いたします。

Low-E ガラスに関しては多くの利点があるにも係わらず、先方の発言内容をそのまま公開シンポジウムにて紹介してしまったことにより、関係各位に御迷惑、御心配をお掛けしました。ここに、その後の調査による事実関係を御報告するとともに、心からお詫び申し上げます。